

# 雪の聖母園だより

# ゆきん花

2023年

(春号)Vol. 59

## 新年度の始まりに当たつて 「復活」希望を持つて生きること

社会福祉法人 雪の聖母園

理事長 上杉昌弘

雪の聖母園では、4月3日に辞令交付式がありました。久しぶりの新卒者の新任もあり、若やいだ雰囲気の中で新年度を始めます。利用者さんにとってここが良い「家庭」であるように私どもも頑張ってまいります。働いて下さる職員皆さんにとっても、ここでの日々が充実した良いものとなるよう祈っています。

社会福祉法人雪の聖母園は、夕張市、新ひだか町（静内）の拠点あわせて4つの施設、またそれぞれに管理者を置く事業所がありますので、法人内の人事異動も発令されました。それぞれの場で新しい職務に慣れ、職務の連携協力と良い人間関係を築き新しい心と視点で互いを生かし合っていただきたいと願います。

当日、常務理事三戸部氏からの訓示は、私自身そうありたいと思う示唆に富むお話をでした。約めて言つと、天才は努力し続ける人に及ばない。そして努力に勝る

ものは、仕事を面白いと感じ楽しむことだ、というものでした。確かに義務感やまじめさは職務を果たす上で欠かすことにつかないものでしょ。しかし、生き生きとした笑顔、軽やかで温かい心遣いが聖母園に満ちるならば、皆がここにいて良かつたと思えることでしょう。

昨年、職員研修で木内神父さんの生き様を負ったNHKドキュメンタリーを見ました。子ら（あえて使います）を見つめる神父さんの眼差しの温かかったこと！ そしてどんな辛い労働をも凌ぐ喜びが垣間見えました。子を指導している時にご自分の誤りに気付いた木内師は、時に大笑いしながら、すぐに自分の非を認め、子らに赦しを願っていました。その映像を通して私たちも幸福感に包まれるように感じました。今年度も天国から祈っていてください。

これまで、雪の聖母園は、多くの災害や事故がありました。しかし、これらは互いに仲良くし、頑いた恵みに喜び感謝できますように。一人一人が担っている労苦を互いに担い合い、辛いことさえ嬉しさへと変えられますように。

フリーピンミンダナオで養護施設イースターヴィレッジ（復活の村）を創設した祐川神父さんが話してくれたことに、「復活とは、あの世に行うことではなく、どれだけ希望や夢を持って今日を生きていくこと」。おりしも3日前、世界中でキリストの復活祭を祝いました。新しい時に当たり、私たちの挑戦を続けていきましょう。

キーワードとして「生産性の向上」や「福祉ロム」を念頭に置いて、会計・経理・労務管理についてはアワトソーシングを推進し、利用者さん支援に関連する分野においても、ICTの積極的な導入を図り業務改善を実現しながら利用者の皆さんとしっかりと向き合える時間を確保し、支援の質の向上を図って行きたいと考えます。

一人としてこぼれ落ちる人のいない地域共生社会の人としての責任を再認識し、確実にその役割を果たすこの出来的よう努めて参りました。ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年1月16日、日本国内において初の新型コロナウイルス陽性者が報告されてから3年を経過し、本年5月8日以降は2類から季節性インフルエンザとの政府からの発表がありました。

この新たな状況下、雪の聖母園では、これまでの事業計画では、課題を

# 雪の聖母園管理者挨拶

障がい者支援施設 雪の聖母園

高畠 康典 管理者

例年より早く雪解けが進み、聖母園の近隣ではミズバショウやスイセンが咲きはじめました。雪の多い日形にもあたたかな春の訪れを感じています。

3年という長さに渡った感染症との闘いは終止符とはならずとも、

5月8日以降はある程度緩和がされていくと予想しています(現在4月中旬のため詳細が判りず、歯切れが悪くすみません)。

今年こそは利用者の皆さんと色々なことができるかなと期待に胸を膨らませています。

この3年間は、お花見や旅行、お祭りなど…ずっと我慢してきたものばかり。

北海道にとつては、日本ハムファ

イターズの新たな拠点であるエスコンフィールドが開業し、明るい話題となっています。利用者の皆さんとまた一緒に野球観戦に行きたいたなあ…。

いろんな経験や体験をして、楽しみことはもちろんですが、新たな発見や生きがいなどを感じ、人

生の選択肢が増えていることが大切だと思います。

その積み重ねの中で、一人ひとりの夢や希望につながり、それに向かって毎日を送ることが人生を豊かにすることではないでしょうか。

そんな毎日が過ぎるのに、利用者の皆さん一人ひとりに寄り添う雪の聖母園でありたいと思います。

どうか令和5年度も変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

この春は例を見ない速さで桜前线が北上しているとの報せを耳にし、月形にも桜が咲くことを楽しみにしています。

この桜前線、例年どれくらいの速さなのか調べたところ、どうやら時速1km程度で赤ちゃんのハイハイするスピードとおなじくらいだそうです。

たとえ歩みは遅くとも、一步一歩、着実に希望の春に向かっていきたいと思います。

## 行事紹介

### 雪の聖母園

例年よりも雪解けが進み、桜の開花も早い春を迎えるました。雪の聖母園の周りではウグイスの鳴き声が響き渡り、遠くの山々のわずかな残雪と新緑のコントラストを眺め長い冬の終わりとこれから迎える夏にご利用者様、職員ともに気持ちを昂らせています。



#### 節分

2月3日 雪の聖母園・オプス・マンマルーナに鬼がきました。鬼に立ち向かう人、逃げる人、驚いてその場から動けずにいる人などアクションも十人十色です。

#### 外出

3月から近隣市町村へ外出範囲を広げ、少しずつですが感染症に対する制限を緩和しています。約3年ぶりに軽食の機会も設けてました。できたての味、とってもおいしそう♪



#### ご復活祭

4月9日 ご復活の主日のお祝いをしました。ご利用様、職員あわせて約60名がホールに集まり、久しぶりの会食をしました。この日のメニューはライフネットゆうばり『ベーカリーめぐみ』特製のセレクトパンとオードブルでした。見た目も華やかで、とても好評でした。

## 新年度を迎えて

ライフネットゆうばり

管理者 中川 博之

いよいよ本格的なアフター  
コロナが動き出す令和5年  
度が始まりました。ライフ  
ネットゆうばりでは今年度  
を「コロナ前体制へのソフ  
トランディング元年」と位  
置づけ、利用者の皆さんが  
この3年間我慢してきた行  
事やお祭り、旅行などを、



徐々にかつ慎重にではあり  
ますが復活させていこうと  
考えています。ご家族の皆  
様、夕張の地域の皆様、3  
年前を思い出しながらご支  
援ご協力をよろしくお願ひ  
いたします。おかげさまで  
5月3日は通所の利用者も  
3年ぶりに集まり、例年よ

り開花が早かった一本桜を  
愛でながら、焼肉レクを実  
施することが出来ました。

今年度の大きな事業の一

つは「通所センター」の整備  
です。新設のゆうばり丘の  
上こども園に生まれ変わり  
閉園となつた旧コーパロ幼  
稚園の建物を、夕張市から  
無償で譲渡していただき、  
パン工場やカレー工場を移  
設するとともに、通所の方  
の食堂や休憩室、作業所を  
設置する計画です。今年の  
お盆前には運用開始できる  
予定ですので、機会があれ  
ば是非ご覧ください。

2006年に財政破綻し  
た夕張市もあと4年ほどで  
市債(借金)の返済が終了し  
ます。日本知的障害者福祉  
協会の月刊誌「さぼーと」  
4月号では夕張市の本間副  
市長にじき寄稿いただきました  
した。しかし新型コロナ  
ウイルスの規制緩和に伴い、  
利用者の皆さんのが待ち望ん



を持った地域住民に対しても総合的な支援が出来ると  
いう力強いお言葉を頂きました。財政再建団体脱却  
後の夕張を見据えつつ、今  
年度も市民のためのセーフ  
ティーネット整備のため、  
尽力して行きたいと思つて  
います。



今年は感染対策を万全にして計画していくことになりました。今年の旅行は、利

用者の皆さんにとってしばらく旅行に行けなかつた分を取り返すことができるようになります。また、その中で「専門性を持つ法人事業所であれば（種別を超えて）様々なニーズも利用者の皆さんのが楽しみにしている行事の一つです



が、新しくなつた施設では初めての開催に向けて準備をしていくことになりました。例年「ふれあい祭り」では、地域の方々に参加していただきことで利用者の皆さんと地域の方々が笑顔で過ごす楽しい思い出を持つ時間を過ごせるように職員一同も全力でサポートを行つていきないと思っています。

そして「ふれあい祭り」

でいたしクリエーションやイベントを復活する方針となりました。

その一つが道内旅行・道外旅行です。利用者の皆さんもまた旅行に行きたいなと話しておりましたが、この数年間は新型コロナウイルス感染予防のため例年のような旅行に行くことはできませんでした。ですが、

例年「ふれあい祭り」では、地域の方々に参加して利用者の皆さんと地域の方々が笑顔で過ごす楽しい思い出を持つ時間を過ごせるように職員一同も全力でサポートを行つていきないと思っています。

また夕張市内で開催されてきた地域行事も徐々に復活してきており、以前のように地域行事を通して利用者の皆さんのが地域の方々と交流できる場やおいしい食べ物を今から楽しみにしています。

今年は感染対策を万全にして計画していくことになりました。今年の旅行は、利用者の皆さんにとってしばらく旅行に行けなかつた分を取り返すことができるようになります。また、職員一同最善を尽くしていきたいと思つています。

# い　あ　い　さ　つ

## 花の里こども園

## 園長 豊 田 摺 子

雪だけも早く進み、田んぼでえさをついぱんでいた白鳥も飛び立っていました。長いことコロナで内にこもっていた日々から少し解放され、春の喜びもひとしおです。

3月に11名の年長児を送り出し、4月には5名の新しい園児を迎えて園児63名で新年度をスタートしました。クラス担



ちで新年度を迎えてあります。新入園の子どもたちは、お父さんお母さんと離れて、家庭以外の場所で過ごすことに不安を隠しきれず、泣いてしまうこともあります。

## 卒園式

が、毎日通ってくることで、喜んで登園した日もあります。お母さんと一緒に、泣きながら登園してきた日もありました。そんな毎日を過ごしながら、花の里こども園での日々が、生活の一員となつていった子どもたちです。人の話を聞く力、最後まであきらめない力、お友だちと協力してやり遂げることの大切さ・・・たくさんの方々と一緒に成長してきました。

3月、11名のお友だちが、卒園してしまいました。一番長いお友だちは、生後6か月からの通園です。まだ、自分で食べることも、歩くことも

これから楽しいことがたくさん待っています。不安になつた時には、先生方がギュッと抱きしめてくれます。初めて所属する花の里こども園といふ小さな社会の中で、自分以外のお友だちと一緒に生活をしていきます。

お友だちと一緒にだからこそ最後まで頑張る力を育むことができます。おそらく子どもたち一人ひとりを大切に、愛情をこめて関わっていきます。新年度もじうぞよろしくお願いします。



4月からは小学生、新たに

できなかつた赤ちゃんが、家庭と園との毎日の中で、心も体も大きく成長しました。卒園式当日は、おそらく一番おしゃれ着に身を包み、晴れやかな顔で登園してきました。卒園証書を受け取る姿も将来の夢を語る姿も、立派な一年生の姿でした。

子ども園に毎日通つてくる中で、喜んで登園した日もあります。お母さんと一緒に、泣きながら登園してきた日もありました。そんな毎日を過ごしながら、花の里こども園での日々が、生活の一員となつていった子どもたちです。人の話を聞く力、最後まであきらめない力、お友だちと協力してやり遂げることの大切さ・・・たくさんの方々と一緒に成長してきました。



場所で、いろいろなことに挑戦していきます。未来に向けてたくさんの可能性を秘めている子どもたちを影ながら応援していきます。



春になり、大きい稚魚は5cmくらいまで育ち、いよいよお別れの時です。成長したのは、組のお友だちも、立派な年長さんへと進級していました。サケだけではなく4歳児ばら組のお友だちも、立派な年長さんへと進級していました。紙コップに入れられた稚魚を竹のすべり台でスペツ川に放流しました。「ばいばーい、げんきでねー、大きくなつて戻ってきてねー」と子どもたちの元気な声とともに川の中を泳ぎました。今では、自分でエサを探しながら、大きな海を泳いでいますね。

育ってきたサケを放流しました。卵は昨年12月にいただけでした。もう10年以上続けているサケ卵の飼育、放流。月形町の川にも大きくなつたサケが戻ってきてています。初めて月形町からの依頼で行っていた飼育ですが、今では大切な保育活動の一つになっています。花の里こども園の保育理念である『命の大切さを知り、自然を愛し、人を愛し、郷土を愛する心を育む』を実践する活動といえると思います。

最初はよく田にするいぐらの形だったサケ卵が、ぶくぶく

く動いて、殻から飛び出る姿は、生命の神祕を目の前で感じることができます。おなかもの栄養の袋が小さくなつてから、エサをあげたり、水を取り替えたり管理が大変ですが4歳児ばら組のお友だちと先生が、その管理を担つてくれました。毎日の観察日記もつけていました。

春になり、大きい稚魚は5cmくらいまで育ち、いよいよお別れの時です。成長したのは、組のお友だちも、立派な年長さんへと進級していました。サケだけではなく4歳児ばら組のお友だちも、立派な年長さんへと進級していました。紙コップに入れられた稚魚を竹のすべり台でスペツ川に放流しました。「ばいばーい、げんきでねー、大きくなつて戻ってきてねー」と子どもたちの元気な声とともに川の中を泳いで見えなくなりました。今は、自分でエサを探しながら、大きな海を泳いでいますね。

## ～一人ひとりの個性を大切に～

社会福祉法人 雪の聖母園

静内ベビーホーム 園長 油井真弓



新ひだか町静内の春と言えば、二十間道路の桜です。直線7kmに渡り、エゾヤマサクラ等が植えられています。満開時や散り際は、とても美しい景観です。是非、一度いらしてみてください。

そんな素敵な町で乳児保育を行っています。0～2歳児は『生活とあそび』が最も大切にしていかなくてはなりません。当園の保育方針には「第2の家庭として 安心して過ごせるよう 環境を整え見守りの中で育み援助する」とあります。環境には大人も入っていると考えていますので、子ども達が第2の家庭として安心して過ごせる事を第一に考えていかなくてはいけないと思ってあります。

ベビーホームは、子どもたちにとってより良い保育を目指し、全力で援助を行ってまいりたいと思います。

3月末には卒園式でとても素敵な姿を見せてくれました。はじましてよろしくね会では新しい出会いがありました。別れと出会いが、ベビーホームを育ててくれていることを実感します。私自身も子ども達とあそんでいる時、お喋りしている時、その時が一番楽しいですね。

### 卒園式

3月26日（日）に卒園式を行いました。他の保育園とは少し違いベビーホームでは2歳児が卒園児です。リハーサルは1度だけ行い本番になります。

修了証書の代わりに思い出アルバムが授与されます。

本番では、卒園児らしい素敵な姿を見せ、みんなを感動させてくれました。



### はじめまして よろしくね会

4月3日（月）に入園式があり、0歳児3名 1歳児3名の小さな可愛らしい入園式になりました。昨年とは趣向を少し変え、絵本の読み聞かせも行いました。

短い時間ではありましたが滞りなく終え、最後はクラス担任に部屋の説明を聞いて玄関でイースターバックをもらい終了しました。





世代間交流会（聖母園）



理事長からごあいさつ（花の里）



恩人のミサ（聖母園）



サンタさん 大好き（静内）



ヨイショーヨイショー できたよー（静内）



虫さん おきて もう春ですよー（静内）



焼肉レク（ゆうばり）



お花見ドライブ（ゆうばり）



お食事中（ゆうばり）



雪の聖母園 HP



本 部 facebook



ゆうばり facebook



花の里 facebook



静 内 facebook

## 編集後記

皆様は一年間の目標は立てていますか？私は今年の目標を「キャンプへ10回行く」としてあります。昨年も同様の目標を立てていたのですが、中々忙しく目標達成はできませんでした。「今年こそは・・・！」と計画を立てているところです。

仕事についての目標もありまして、そのうちの一つが「定期的なFacebookの更新」です。広報を担当して1年となりますが、皆様のおかげで無事に乗り切ることができました。ありがとうございます。今年度も引き続き、雪の聖母園の情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

広報担当